

大学入学者選抜をめぐる最新の動向

文部科学省 高等教育局 大学教育・入試課 大学入試室



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

【本日の内容】

- 1. 令和6年度大学入学者選抜について**
- 2. 新学習指導要領に対応した
令和7年度大学入学者選抜について**

1.令和6年度大学入学者選抜について

令和6年度大学入学者選抜実施要項のポイント ①

(令和5年6月2日付5文科高第369号 文部科学省高等教育局長通知)

新型コロナウイルス感染症対策関係

5月8日から新型コロナウイルス感染症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成10年法律第114号)上の新型インフルエンザ等感染症に該当しないものとし、5類感染症に位置づけられることから、「第14 新型コロナウイルス感染症対策に伴う試験期日及び試験実施上の配慮等」は、実施要項上一般化できるものや、令和6年度大学入学者選抜実施時においても新型コロナウイルス感染症の影響が残るもの等を除き、削除するとともに感染症対策ガイドラインも作成しないこととする

《令和6年度大学入学者選抜実施時においても新型コロナウイルス感染症の影響が残るもの(又は、激変緩和措置として据え置くもの)》

大学入学共通テスト

新型コロナ後、全都道府県に設定してきた追試験場については、今後何らかの現状変更がされない限り、従前の全国2会場に戻すが、激変緩和措置として、追試験は本試験の2週間後に設定

● **試験期日 (日程のみ変更)** ※昨年度と同様に本試験、追試験の2段構え

● 本試験・・・令和6年1月13日(土)、14日(日)

● 追試験・・・令和6年1月27日(土)、28日(日)

※本試験の2週間後に追試験を実施

各大学の個別選抜

● **調査書を活用する場合の留意事項(継続)**

- ・ 令和6年度大学入学者選抜の受験者の調査書においては、新型コロナウイルス感染症の影響が残るため、調査書の活用にあたっては、記載内容が少ないこと等を理由に不利益を被らないようにする

令和6年度大学入学者選抜実施要項のポイント ②

(令和5年6月2日付5文科高第369号 文部科学省高等教育局長通知)

《一般化できるもの》

各大学の個別選抜

●オンライン面接等における留意事項(継続)

- ・志願者の居住地や大学の実情等に応じて、ICTを活用したオンラインの試験等の工夫をする場合、利用環境の差異等により不利益が生じないように配慮することや不正行為への注意喚起を要請

●外国人を対象とした入試における留意事項(継続)

- ・入学志願者にかかる負担軽減の観点から、オンラインによる試験の実施等により、可能な限り渡航を伴わない方法により実施するなどの工夫に配慮する

●不測の事態が生じた場合の受験機会の確保(継続)

- ・不測の事態により、試験に遅刻した者又は受験できなかった者がいる場合には、試験時間の繰り下げや別日程への振替等の対象とするなど、受験機会の確保等に配慮する

●一般的な感染症対策(継続)

- ・試験実施時期における感染症の流行状況等を踏まえ、効果的な換気や手指衛生の励行など感染症の特徴に応じた基本的な感染症対策を講じることとする

令和6年度大学入学者選抜実施要項のポイント ③

(令和5年6月2日付5文科高第369号 文部科学省高等教育局長通知)

その他

●教学マネジメント指針(追補)について(内容追加)

- ・アドミッション・ポリシーの策定・公表に当たり、参考するものとして令和5年2月に中央教育審議会大学分科会において取りまとめられた「教学マネジメント指針(追補)」を追加

●高等学校教員や受験生等の負担軽減(新規)

- ・調査書以外の志願者本人が記載する資料や高等学校に記載を求める資料について、編集可能な様式のデータファイルを提供すること等により、作成者の負担軽減に努めること

●受験生等への情報提供(内容追加)

- ・受験者本人への成績開示を含む情報の開示については、情報を入手する者の利便性の向上に十分に努めるものとする

●試験問題作成時の機密性の確保(内容追加)

- ・パソコン等を使用して試験問題を作成する場合、第三者からのアクセスを防止する措置を講じること

●不正防止対策関係(継続)

- ・各大学の判断により、例えば、不正行為について、警察に被害届を提出する場合があることを周知すること
- ・受験者の所持品の取扱いを募集要項等で明示しておくこと
- ・試験の態様の応じて、試験開始前に電源を切らせ、鞆に収納させること等についても説明を行うこと
- ・巡視時に注意を要する観点(例：手の位置、受験生の目線 等)を踏まえ、監督者等に周知しておくこと

●安全対策関係(継続)

- ・試験実施当日の安全対策について、必要に応じて警察等と連携して対応すること
- ・大学の実情に応じて、必要な警備要員の確保と試験場周辺の十分な巡回に努めること
- ・警察や消防等の協力の下、危機事象発生時のマニュアル等を整備し、定期的に見直すこと

多様な背景を持った者を対象とする選抜の実施

■背景

- 多様な価値観が集まり新たな価値を創造するキャンパスを実現する観点から、各大学の創意工夫の一方策として、アドミッション・ポリシーに基づき、各大学が**キャンパスに多様性をもたらすことができる**と考える者を対象とする選抜を実施することも有効
- **そうした選抜が実施できることを明確にするため**、入学者選抜の基本方針である実施要項の入試方法に「**多様な背景を持った者を対象とする選抜**」を追加
- 令和7年度実施要項の予告として通知していたものを令和5年度実施要項から前倒して反映

■令和6年度大学入学者選抜実施要項（令和5年6月2日付文部科学省高等教育局長通知）（抄）

第3 入試方法

1 （略）

2 一般選抜のほか、各大学の判断により、入学定員の一部について、以下のような多様な入試方法を工夫することが望ましい。

（1）～（4） （略）

（5）多様な背景を持った者を対象とする選抜

家庭環境、居住地域、国籍、性別等の要因により進学機会の確保に困難があると認められる者その他各大学において**入学者の多様性を確保する観点から対象になると考える者**（例えば、理工系分野における女子等）を対象として、**入学志願者の努力のプロセス、意欲、目的意識等を重視し、評価・判定する**入試方法。

この方法による場合は、こうした**選抜の趣旨や方法について社会に対し合理的な説明**を行うことや、入学志願者の大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を適切に評価することに留意すること。

理工系の女子を対象とする国公立大学入学者選抜の例（令和6年度入試）①

○選抜の方法が総合型選抜に準じるもの

設置主体	大学	学部	学科	選抜区分名	募集人員	選抜方法	備考
国立	北見工業大学	工学部	地球環境工学科 地域未来デザイン工学科	総合型選抜 (コース確定枠)	16	基礎学力確認試験、面接、調査書、学習計画書	R6年度選抜より実施
国立	東京工業大学	物質理工学院	材木系 応用化学系	総合型選抜	20	一段階目：共通テスト 二段階目：共通テスト、個別学力検査（総合問題）、調査書、志望理由書	R6年度選抜より実施
		情報理工学院	数理・計算科学系 情報工学系	総合型選抜	14	一段階目：共通テスト 二段階目：個別学力検査（総合問題）、調査書、志望理由書、活動実績報告書	R6年度選抜より実施
		環境・社会理工学院	建築学系 土木・環境工学系 融合理工学系	総合型選抜	9	一段階目：共通テスト 二段階目：個別学力検査（総合問題）、調査書、志望理由書、活動実績報告書	R6年度選抜より実施
国立	金沢大学	理工学域	数物科学類 機械工学類 フロンティア工学類 電気情報通信学類 地球社会基盤学類 地球惑星科学コース	女子枠特別入試	34	共通テスト、口述試験（調査書、志望理由書、活動記録等を参考に行う）	R6年度選抜より実施
国立	琉球大学	工学部	工学科	総合型選抜 I	10	第一次選考：志望理由書、自己推薦書、活動内容を証明する資料、活動内容を証明する資料の概要、調査書 第二次選考：面接、口頭試問、プレゼンテーション	R6年度選抜より実施

注：ウェブ上に公表されている各大学の募集要項等の情報により作成

理工系の女子を対象とする国公立大学入学者選抜の例（令和6年度入試）②

○選抜の方法が総合型選抜に準じるもの

設置主体	大学	学部	学科	選抜区分名	募集人員	選抜方法	備考
私立	東京理科大学	工学部	全学科	総合型選抜 (女子)	15	基礎学力確認試験、面接、調査書、学習計画書	R6年度選抜より実施
		創域理工学部	建築学科 先端化学科 電気電子情報工学科 経営システム工学科 機械航空宇宙工学科 社会基盤工学科	総合型選抜 (女子)	18	基礎学力確認試験、面接、調査書、学習計画書	R6年度選抜より実施
		先進工学部	全学科	総合型選抜 (女子)	15	基礎学力確認試験、面接、調査書、学習計画書	R6年度選抜より実施
私立	大同大学	工学部 情報学部	全学科	総合型選抜	34 ※	調査書、活動報告書、志望理由書、小論文、面接	H5年度選抜より実施

※女子枠募集人員は他の入試との計。

注:ウェブ上に公表されている各大学の募集要項等の情報により作成

理工系の女子を対象とする国公立大学入学者選抜の例（令和6年度入試）③

○選抜の方法が学校推薦型選抜に準じるもの

設置主体	大学	学部	学科	選抜区分名	募集人員	選抜方法	備考
国立	東京工業大学	生命理工学院	生命理工学系	学校推薦型選抜	15	共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書、学習計画書	R6年度選抜より実施
国立	電気通信大学	情報理工学域	I類(情報系)デザイン思考・データサイエンスプログラム	学校推薦型選抜	5	総合問題試験、面接試験、提出書類(理数系分野におけるこくないが国内外で開催される科学技術コンテスト等の受賞歴など)	R6年度選抜より実施
国立	富山大学	工学部	工学科 (電気電子工学コース、知能情報工学コース、機械工学コース)	学校推薦型選抜 I	10	共通テスト、小論文、書類審査(推薦書、調査書、志望理由書)	R5年度選抜より実施
国立	山梨大学	工学部	工学科	学校推薦型選抜 I	14	小論文・面接(数学・理科・外国語の素養に関する試問を含む) 志望理由書、調査書、「多面的・総合的な評価のための申告書」、推薦書	R6年度選抜より実施
国立	名古屋大学	工学部	電気電子情報工学科 エネルギー理工学科	学校推薦型選抜	9	第1次選考: 志望理由書、推薦書、調査書、共通テスト 第2次選考: 口頭試問による面接	R5年度選抜より実施
国立	名古屋工業大学	工学部	物理工学科 情報工学科 社会工学科 電子・機械工学科	学校推薦型選抜	28	第1次選考: 推薦書、調査書、エントリーカード 第2次選考: 筆記試験(数学、理科の基礎学力を問う)	H6年度選抜より実施
国立	島根大学	材料エネルギー学部	材料エネルギー学科	学校推薦型選抜 II	6	共通テスト、面接、調査書、志望理由書	R5年度入試より実施

注: ウェブ上に公表されている各大学の募集要項等の情報により作成

理工系の女子を対象とする国公立大学入学者選抜の例（令和6年度入試）④

○選抜の方法が学校推薦型選抜に準じるもの

設置主体	大学	学部	学科	選抜区分名	募集人員	選抜方法	備考
国立	熊本大学	情報融合学環	DS総合コース DS半導体コース	学校推薦型Ⅱ	5	共通テスト、推薦書、調査書、志望理由書、面接(口頭試問)	R6年度選抜より実施
国立	大分大学	理工学部	理工学科	学校推薦型選抜	13	調査書、推薦書、基礎能力試験、面接(口頭試問を含む)、志望理由書	R6年度選抜より実施
国立	琉球大学	工学部	工学科 (機械工学コース、エネルギー環境工学コース、社会基盤デザインコース)	学校推薦型選抜Ⅱ	10	共通テスト、個別学力検査等(面接、調査書、推薦書、志望理由書)	R6年度選抜より実施
公立	兵庫県立大学	工学部	電気電子情報工学科 機械・材料工学科 応用化学工学科	学校推薦型選抜	15	書類審査(調査書、推薦書、志望理由書)、適性検査、小論文、面接	H27年度選抜より実施
公立	高知工科大学	データ&イノベーション学群		学校推薦型選抜	若干名	学校推薦書、志望理由書、調査書、面接(口頭試問を含む)	R6年度選抜より実施
私立	芝浦工業大学	工学部 システム理工学部 デザイン理工学部 建築学部	全学科	公募制推薦入学者選抜(女子)	64	書類審査、筆記試験(数学、理科(物理または化学)、面接)	H30年度選抜より実施
私立	愛知工業大学	工学部 経営学部 情報科学部	全学科	学校推薦型選抜	37	書類審査、筆記試験、面接(口頭試問も含む)	S64年度選抜より実施

令和6年度大学入学共通テスト 実施概要

概要

- ・激変緩和措置として、追試験を例年より1週間後ろ倒しし、2週間後(1/27・28)に実施。
- ・追試験場は、従前の全国2会場としていたが、能登半島地震により被災された受験生の受験機会を確保するために、石川県の金沢大学(角間キャンパス)に追加で設置。
- ・共通テストの利用大学は、864大学(専門職大学及び短期大学含む。国立:82、公立:110、私立:672)。

共通テスト本試験 (1/13, 14)

(A) 志願者数: 491, 914人 [前年度: 512, 581人 ▲20, 667人]

(B) 受験者数: 456, 523人 [前年度: 471, 313人 ▲14, 790人]

(A) - (B) 35, 391人 [前年度: 41, 268人 ▲5, 877人]

【実施状況】

- 交通機関の遅延などによる試験開始時刻の繰下げ 586人 [対前年度 ▲50人]
- 英語リスニングの再開テスト
英語(リスニング)受験者数 447,531人 うち再開テスト受験者 55人 [対前年度 +12人]
- 監督者の対応誤りなどによる再試験受験対象者数 50人 [対前年度 ▲343人]
- 不正行為(カンニングペーパーの使用、定規の使用、「解答やめ」の指示後に解答を継続) 4人 [対前年度 +2人]

共通テスト追・再試験 (1/27, 28)

(A) 受験予定者数: 1, 638人

- 追試験受験許可者数 1,629人 [対前年度 ▲2,264人]
- 再試験受験希望者数 9人 [対前年度 ▲59人]

(B) 受験者数: 1, 435人

- 追試験 1,429人 ● 再試験 6人

《追試験許可事由別人数》

・かぜ	205人
・インフルエンザ	495人
・新型コロナウイルス	367人
・胃腸炎	148人
・その他疾病	367人
・負傷	8人
・交通機関の遅延又は予定外の運休	2人
・やむを得ない事由	18人
・令和6年能登半島地震での被災	19人
計	1,629人

文部科学大臣メッセージ

(令和6年能登半島地震の影響を踏まえた大学入学共通テストの実施について)

今月1日、令和6年能登半島地震が発生いたしました。まず、亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

現在のところ、1月13日（土）、14日（日）の大学入学共通テストの本試験は予定通り実施することとしておりますが、個別の試験会場の状況について、現在確認を進めています。

このたびの地震の影響により、1月13日（土）、14日（日）の大学入学共通テストの本試験を受験できない方も見込まれることと思っております。そうした皆さんも、27日（土）、28日（日）追試験を受験可能となるよう、特例措置を講ずるとともに、被災した方々が受験しやすいよう、被災地の大学等と連携し、追試験会場を設置する予定です。

今後、試験の実施に関する情報、追受験申請方法など具体的な情報を文部科学省、大学入試センターのホームページ等から発信しますので、受験生及び保護者の方々におかれては情報にご留意ください。

受験生及び保護者の方々におかれては、不安を抱えている方もいるかと思いますが、受験生の皆さんが入学試験においてその力を十分に発揮できるように、文部科学省としても引き続き努めてまいります。

令和6年能登半島地震の発生に伴う令和6年度入学者選抜における対応について(通知)

(令和6年1月5日付5文科高第1524号 文部科学省高等教育局長通知)

各大学におかれては、令和6年能登半島地震の発生により被災した受験生に最大限配慮し、出願手続きや受験機会の確保等について、特に下記の事項に関し、各大学の実情に応じて柔軟な措置を講じていただくとともに、当該措置について受験生等に広く情報提供を行うようお願いいたします。

記

1. 出願手続き等について

- (1)被災した受験生の中には、例えば、①あらかじめ定められた期間に出願できない者、②被災により出願書類や受験票を焼失等した者、③志願する大学の出願書類を入手できない又は通信環境が復旧せずインターネットによる出願が困難となる者が含まれることが想定される。各大学においては、被災した受験生に対する出願手続きについて、出願期間の延長、出願方法や受験当日の手続きの弾力化など柔軟に対応すること。
- (2)特に、出身高等学校等の被災の状況によっては、当該高等学校等が調査書や卒業証明書等を発行できない可能性や被災した受験生が調査書や卒業証明書等、高校卒業程度認定試験の合格証明書等の書類を入手できない可能性が想定される。このため、出願書類については事後的に提出させるなど柔軟に対応すること。
- (3)被災した受験生に対する入学検定料の納入期限の延長や、入学検定料の減免について検討すること。

2. 受験日程について

被災した受験生の受験機会を確保するため、各大学の実情に応じて別日程での受験へ振り替えるなど柔軟な対応について検討すること。

3. その他

その他各大学の実情に応じて、入学手続き期間の延長、入学金・授業料等の納入期限の延長や減免など取り得る措置について検討すること。

2.新学習指導要領に対応した 令和7年度大学入学者選抜に係る予告について

令和6（2024）年度実施の大学入試に向けたスケジュール



大学入試のあり方に関する検討会議

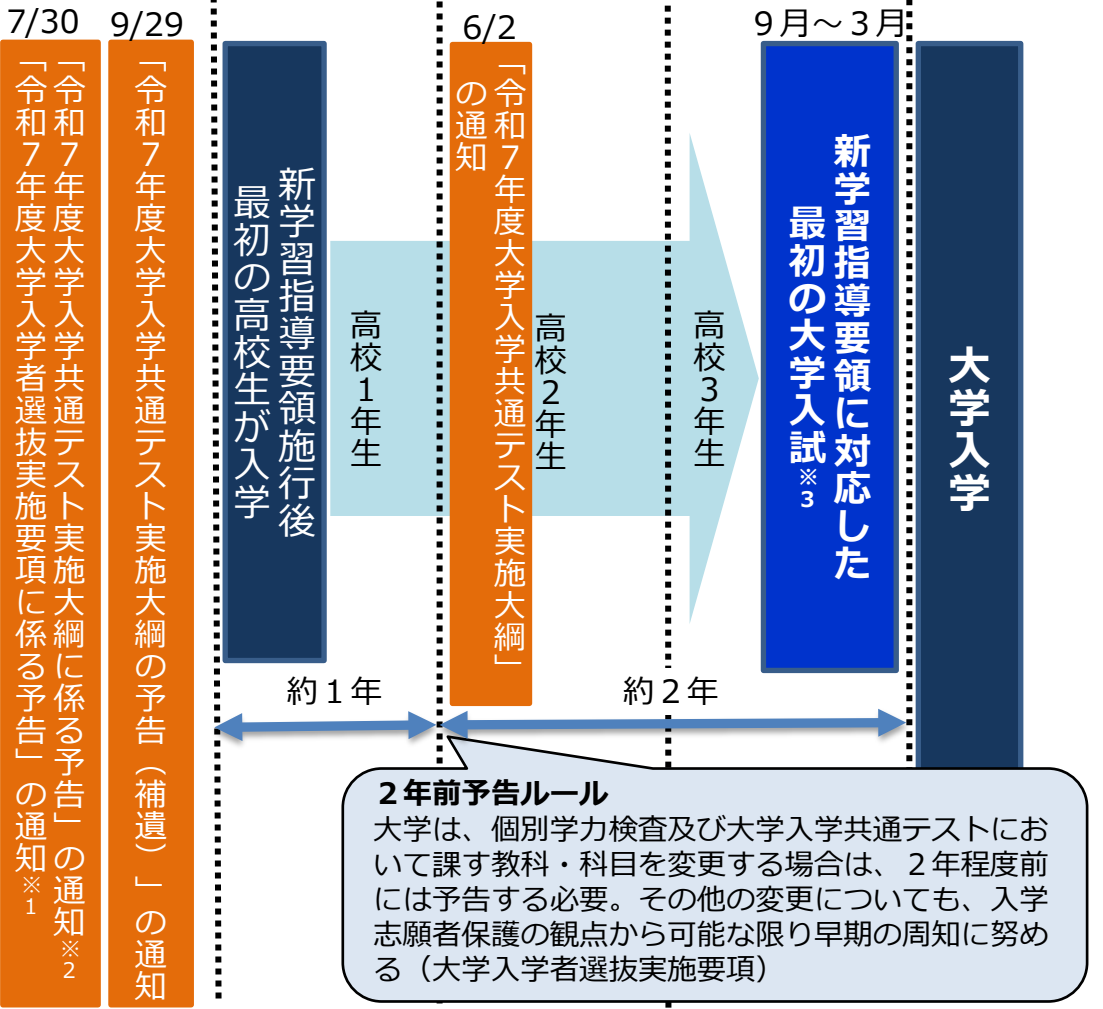
12月27日 設置

1月15日 第1回

月2回程度開催

- 委員からの意見発表
- 外部有識者からの意見聴取
- Web意見募集
- 選抜区分ごとの実態調査 など

7月8日 提言とりまとめ



※1 実際の大学入学者選抜実施要項は、入試実施年度の6月頃に文部科学省より通知
 ※2 実際の大学入学共通テスト実施大綱は、入試実施の前年度の6月頃に文部科学省より通知
 ※3 総合型選抜：9月以降出願 学校推薦型選抜：11月以降出願 大学入学共通テスト：1月 一般選抜：2・3月 15

令和7年度大学入学者選抜実施要項の予告（概要）①

（令和3年7月30日付3文科高第471号 文部科学省高等教育局長通知）

平成30年3月の高等学校学習指導要領の改訂に対応した各大学の令和6年度に実施する入学者選抜の変更等が、入学志願者の準備に大きな影響を及ぼすことが予想されることから、各大学の2年前予告（遅くとも令和4年度末）を速やかに行えるように令和3年3月31日「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議審議のまとめ」及び同年7月8日「大学入試のあり方に関する検討会議提言」等を踏まえ、大学入学者選抜実施要項等の見直し内容を予告（令和3年7月30日）。

基本方針

- 提言において整理された大学入学者選抜の三原則※を基本方針に反映。
《大学入学者選抜の三原則》
 - ①当該大学での学修・卒業に必要な能力・適性等の判定
 - ②受験機会・選抜方法における公平性・公正性の確保
 - ③高等学校教育と大学教育を接続する教育の一環としての実施
- 多様な背景を持った学生の受入れ配慮対象の例示として障害の有無、居住地域を追加。

入試方法

- 「一般選抜」とそれ以外という整理を「一般選抜」、「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」に再整理。
- 入学者の多様性を確保する観点から、入学定員の一部分について、以下のような者を対象として選抜を工夫。
 - ・ 専門学科・総合学科卒業生、帰国生徒、社会人
 - ・ 家庭環境、居住地域、国籍、性別等の要因により進学機会の確保に困難がある者その他（理工系分野における女子等）の者※※この場合は入学志願者の努力のプロセス、意欲、目的意識等を重視し、評価・判定。

学力検査等

- 「自らの考えを論理的・創造的に形成する思考・判断の能力」や「思考・判断した過程や結果を的確に、更には効果的に表現する能力」の評価充実のため、可能な範囲で記述式の導入を要請。
 - ・ 各大学のアドミッション・ポリシーに基づき、可能な範囲で記述式の検査方法を取り入れることが望ましい。
- 総合的な英語力を適切に評価・判定する観点から、資格・検定試験等の活用を従来どおり規定。
- 家庭環境や居住地域により、資格・検定試験等を受検することの負担が大きい入学志願者への配慮要請。
 - ・ 資格・検定試験等の結果を利用しない選抜区分の設定
 - ・ 個別学力検査と資格・検定試験等の結果の選択的利用 等
- 令和7年度入学者選抜に係る共通テストより「簿記・会計」「情報関係基礎」が廃止されることに伴い、専門高校生の進学機会の確保への対応として、資格・検定試験等の活用を要請。

障害者への合理的配慮

- 障害のある入学志願者への合理的配慮の充実を図るため、以下のことを要請。
 - ・ 障害のある入学志願者一人一人の個別のニーズを踏まえた建設的対話を行うこと。
 - ・ 相談窓口、支援相談部署等を設置するなど事前相談体制の構築・充実に努めること。

調査書様式の見直し

- 簡素化された指導要録の参考様式に合わせて、調査書様式の簡素化等を行う。枚数は表裏の両面1枚とする。

令和7年度大学入学者選抜実施要項の予告（概要）②

（令和3年7月30日付3文科高第471号 文部科学省高等教育局長通知）

（別添）令和7年度大学入学者選抜実施要項見直しイメージ（案）【調査書様式（表面）】

令和4年度大学入学者選抜実施要項 別紙様式

（別紙様式1）

（表）

※		※		※		※							
1. ふりがな氏名	昭和 平成	年	月	日生	性別	現住所	都道府県 市区 町村 丁目 番 号						
学校名 国立 公立 私立	高等学校 中等教育学校 特別支援学校 (分校)			昭和 平成 令和	入学, 編入学, 転入学 (第 学年)								
全・定・通	普通・専門 () ・総合			昭和 平成 令和	卒業 卒業見込		年 月						
2. 各教科・科目等の学習の記録													
教科	科目	評定				教科	科目	評定				修得 単位数 計	
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年			第1学年	第2学年	第3学年	第4学年		
総合的な学習の時間													
計													
3. 各教科の学習成績の状況		教科	国語	地理 歴史	公民	数学	理科	保健 体育	芸術	外国 語	普・ 家庭	普・ 情報	全体の 学習成績 の状況
		学習成績 の状況											
		教科											
		学習成績 の状況											
4. 学習成績概評		成績段階別人数											
		段階	A	B	C	D	E	合計	() 人				

イメージ案

（別紙様式1）

（表）

※		※		※		※							
1. ふりがな氏名	昭和 平成	年	月	日生	性別	現住所	都道府県 市区 町村 丁目 番 号						
学校名 国立 公立 私立	高等学校 中等教育学校 特別支援学校 (分校)			昭和 平成 令和	入学, 編入学, 転入学 (第 学年)								
全・定・通	普通・専門 () ・総合			昭和 平成 令和	卒業 卒業見込		年 月						
2. 各教科・科目等の学習の記録													
教科	科目	評定				教科	科目	評定				修得 単位数 計	
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年			第1学年	第2学年	第3学年	第4学年		
総合的な学習の時間													
計													
3. 各教科の学習成績の状況		教科	国語	地理 歴史	公民	数学	理科	保健 体育	芸術	外国 語	普・ 家庭	普・ 情報	全体の 学習成績 の状況
		学習成績 の状況											
		教科											
		学習成績 の状況											
4. 学習成績概評		成績段階別人数											
		段階	A	B	C	D	E	合計	(17) 人				

「各教科・科目の観点別学習状況」の項目は直ちには設けない。

※各教科・科目の観点別学習状況の項目は直ちに設けることはせず、今後の高等学校における観点別学習状況の評価の充実の状況、大学における観点別学習状況の活用方法の検討の進展等を見極めつつ、条件が整い次第可能な限り早い段階で調査書に項目を設けることを目指し、引き続き高等学校・大学関係者において検討を行うこととする。（「大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議」（審議のまとめ））

令和7年度大学入学者選抜実施要項の予告（概要）③

（令和3年7月30日付3文科高第471号 文部科学省高等教育局長通知）

（別添）令和7年度大学入学者選抜実施要項見直しイメージ（案）【調査書様式（裏面）】

令和4年度大学入学者選抜実施要項 別紙様式

イメージ案

(裏)

※	※	※	※						
5. 総合的な学習の内容・評価	活動内容	評価							
6. 特別活動の記録	第1学年	第2学年	第3学年 第4学年						
7. 指導上参考となる諸事項	第1学年	(1)学習における特徴等 (4)取得資格、検定等 (注)専門学校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定の内容、取得スコア・取得時期等	(2)行動の特徴、特技等 (5)表彰・顕彰等の記録 (注)各種大会やコンクール等の内容や時期、科学オリンピック等における成績、時期 国際バカロレアなど国際通用性のある大学入学資格試験における成績、時期等						
	第2学年	(1)学習における特徴等 (4)取得資格、検定等	(2)行動の特徴、特技等 (5)表彰・顕彰等の記録 (6)その他						
	第3学年	(1)学習における特徴等 (4)取得資格、検定等	(2)行動の特徴、特技等 (5)表彰・顕彰等の記録 (6)その他						
	第4学年	(1)学習における特徴等 (4)取得資格、検定等	(2)行動の特徴、特技等 (5)表彰・顕彰等の記録 (6)その他						
8. 備考									
9. 出欠の記録									
区分	学年				区分	学年			
授業日数	1	2	3	4	欠席日数	1	2	3	4
出席停止・忌引き等の日数					出席日数				
留学中の授業日数					備考				
出席しなければならぬ日数									
この調査書の記載事項に誤りがないことを証明する 令和 年 月 日 学校名 所在地 校長名									
印					記載責任者職氏名				

(裏)

※	※	※	※						
5. 総合的な探究の記録	学習活動	観点	評価						
6. 特別活動の記録	内容	観点	学年 1 2 3 4						
7. 指導上参考となる諸事項	ホームルーム活動	文章記述を改め、各学校が設定した観点到照して十分満足できる活動状況であると判断される場合、○印を記入する。							
	生徒会								
	学校行事								
8. 備考	第1学年	各学校が定めた評価の観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などに、生徒にどのような力が身に付いたかを端的に記述する。							
	第2学年	要点を箇条書きするなど、その記載事項を必要最小限にとどめる。その際、生徒の特徴・特技や学校外の活動等については、原則として、学習指導等を進めていく上で必要な情報として精選して指導要録に記述された内容を元に記入する。							
	第3学年								
	第4学年								
9. 出欠の記録									
区分	学年				区分	学年			
授業日数	1	2	3	4	欠席日数	1	2	3	4
出席停止・忌引き等の日数					出席日数				
留学中の授業日数					備考				
出席しなければならぬ日数									
この調査書の記載事項に誤りがないことを証明する 令和 年 月 日 学校名 所在地 校長名									
印					記載責任者職氏名				

令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱【概要】①

(令和5年6月2日付 5文科高第370号 文部科学省高等教育局長通知)

新学習指導要領に対応した出題教科・科目

令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目は以下のとおりとする（『簿記・会計』『情報関係基礎』については出題しない）。

出題教科	科目（6教科30科目） ～令和5年度実施
国語	『国語』
地理歴史	『世界史A』 『世界史B』 『日本史A』 『日本史B』 『地理A』 『地理B』 地理歴史及び公民から最大2科目を選択 ※同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。
公民	『現代社会』 『倫理』 『政治・経済』 『倫理, 政治・経済』
数学	『数学Ⅰ』 『数学Ⅰ・数学A』 ① ①から1科目を選択
	『数学Ⅱ』 『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』 ② ②から1科目を選択
理科	『物理基礎』 『化学基礎』 『生物基礎』 『地学基礎』 ① A: ①から2科目を選択 B: ②から1科目を選択 C: ①から2科目及び②から1科目を選択 D: ②から2科目を選択
	『物理』 『化学』 『生物』 『地学』 ②
外国語	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』 1科目を選択



科目（7教科21科目） 令和6年度実施～
『国語』
『地理総合, 地理探究』 『歴史総合, 日本史探究』 『歴史総合, 世界史探究』 『地理総合 / 歴史総合 / 公共』 地理歴史及び公民から最大2科目を選択 ※「地理総合/歴史総合/公共」を選択する場合は、出題範囲（「地理総合」、「歴史総合」、「公共」）のうち、いずれか2つの内容の問題を選択解答。 ※2科目を選択する場合は、以下の組合せ以外の出題科目の組合せを選択。 ・『公共, 倫理』と『公共, 政治・経済』の組合せを選択することはできない。 ・『地理総合/歴史総合/公共』を選択した者は、選択解答した問題の出題範囲の科目と同一名称を含む科目の組合せを選択することはできない。
『公共, 倫理』 『公共, 政治・経済』 『地理総合 / 歴史総合 / 公共』（再掲）
『数学Ⅰ, 数学A』 『数学Ⅰ』 ① ①から1科目を選択 ※数学Aについては、2項目の内容（図形の性質、場合の数と確率）に対応した出題とし、全てを解答
『数学Ⅱ, 数学B, 数学C』 ② ※数学B及び数学Cについては、数学Bの2項目の内容（数列、統計的な推測）及び数学Cの2項目の内容（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）のうち3項目の内容の問題を選択解答
『物理基礎 / 化学基礎 / 生物基礎 / 地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』 最大2科目を選択 ※『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』を選択する場合は、出題範囲（「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」）のうち、いずれか2つの内容の問題を選択解答
『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』 1科目を選択
『情報Ⅰ』

●試験形態は、引き続き、問題冊子及びマークシート式解答用紙を使用し、PBT（紙ベース）。

『英語』については、ICプレイヤーを使用する試験も実施。

令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱【概要】②

(令和5年6月2日付 5文科高第370号 文部科学省高等教育局長通知)

1. 実施期日 **令和7年1月18日(土)、19日(日) (2日間)**

2. 出題教科・科目の試験時間

- 国語：現在測定している内容を維持した上で多様な文章を提示する観点から、**90分**（現行：80分）
- 数学②：出題範囲が「数学Ⅱ」、「数学B」及び「数学C」となり、選択解答する項目数が2から3へ増加するため、**70分**（現行：60分）
- 情報：出題範囲や他教科の試験時間等を考慮し、**60分**（新教科）

教科	出題科目	試験時間
国語	『国語』	90分
地理歴史	『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』、『地理総合/歴史総合/公共』	1科目選択 60分 2科目選択130分 (うち解答時間120分)
公民	『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地理総合/歴史総合/公共』（再掲）	
数学	①『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅰ』	70分
	②『数学Ⅱ、数学B、数学C』	70分
理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』	1科目選択 60分 2科目選択130分 (うち解答時間120分)
外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』 ※『英語』については、ICプレーヤーを使用する試験も実施。	80分 【ICプレーヤー使用試験】 60分（うち解答時間30分）
情報	『情報Ⅰ』	60分

3. 旧教育課程履修者への経過措置

- 旧教育課程（平成21年3月告示の高等学校学習指導要領に基づく教育課程）を履修した入学志願者に対しては、**経過措置問題を出題**

教科	旧課程履修者が選択できる経過措置科目
地理歴史	『旧世界史A』、『旧世界史B』、『旧日本史A』、『旧日本史B』、『旧地理A』、『旧地理B』
公民	『旧現代社会』、『旧倫理』、『旧政治・経済』、『旧倫理、旧政治・経済』
数学	①『旧数学Ⅰ・旧数学A』、『旧数学Ⅰ』
	②『旧数学Ⅱ・旧数学B』、『旧数学Ⅱ』、『旧簿記・会計』、『旧情報関係基礎』
情報	「社会と情報」「情報の科学」に対応する経過措置を講じる。 ※『情報Ⅰ』とは別に、『旧情報』として出題することを、大学入試センターが決定（令和3年12月17日）

※理科：新教育課程及び旧教育課程の間で扱いが異なる内容を出題する場合は、必要に応じて、新教育課程を履修していない入学志願者が選択解答可能な問題を出題する。

令和7年度大学入学共通テスト得点調整の実施条件・方法について

(令和5年6月9日 大学入試センター公表)

- 大学入試センターにおいて検討を行い、以下の で囲っている教科内の科目を得点調整の対象科目とすることを決定。

教科	経過措置科目	新課程科目
国語	—	『国語』
地理歴史	『旧地理A』 『旧日本史A』 『旧世界史A』 『旧地理B』 『旧日本史B』 『旧世界史B』	『地理総合、地理探究』 『歴史総合、日本史探究』 『歴史総合、世界史探究』 『地理総合、歴史総合、公共』
	『旧現代社会』 『旧倫理』 『旧政治・経済』 『旧倫理, 旧政治・経済』	『公共、倫理』 『公共、政治・経済』 『地理総合、歴史総合、公共』（再掲）
数学	① 『旧数学Ⅰ・旧数学A』 『旧数学Ⅰ』	『数学Ⅰ、数学A』 『数学Ⅰ』
	② 『旧数学Ⅱ』 『旧数学Ⅱ・旧数学B』 『旧簿記・会計』 『旧情報関係基礎』	『数学Ⅱ、数学B、数学C』
理科	—	『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』
外国語	—	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』
情報	『旧情報』 ※現高校2年生の選択必修科目「社会と情報」「情報の科学」に対応する内容。	『情報Ⅰ』

部である。これらを読んで、後の問い(問1、3)に答えよ。(配点 20)

次の【資料Ⅰ】(文章、

図

グラフィック、グラフィック)

と【資料Ⅱ】は、気候変動が健康に与える

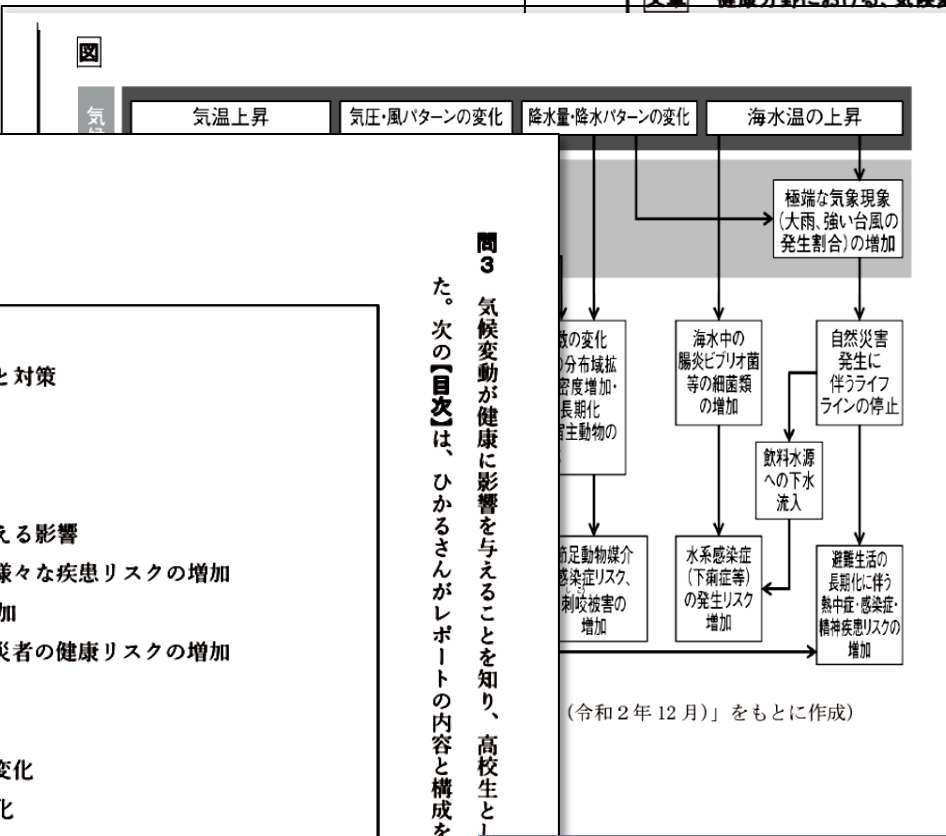
影響について、気候変動が健康に与える

影響について、気候変動が健康に与える

【資料Ⅰ】

文章 健康分野における、気候変動の影響について

注2
加させ、熱中症リスクや暑熱に
注3
心に、暑熱による超過死亡が増
てばらつきはあるものの、熱中
中症死者数は増加傾向にある。
分布域・個体群密度・活動時期
での感染連鎖が発生することが
い北海道南部でもヒトスジシマ
スを媒介する外来性の蚊の鹿児
指摘されている。
インフルエンザのような感染症
やロタウイルス感染症、下痢症
ザや手足口病などの感染症類の
されている。
増加に伴い④自然災害が発生す
神疾患リスク等が増加する可能
い光化学オキシダント・オゾン等
るが、それ以降は減少すること



(令和2年12月)をもとに作成)

問3 気候変動が健康に影響を与えることを知り、高校生として何が出来るか考えたひかるさんは、次の【目次】は、ひかるさんがレポートの内容と構成を考えるために作成したものである。これを誌

【資料

【目次】

テーマ：気候変動が健康に与える影響と対策

はじめに：テーマ設定の理由

第1章 気候変動が私たちの健康に与える影響

- a 暑熱による死亡リスクや様々な疾患リスクの増加
- b 感染症の発生リスクの増加
- c 自然災害の発生による被災者の健康リスクの増加

第2章 データによる気候変動の実態

- a 日本の年平均気温の経年変化
- b 日本の年降水量の経年変化
- c 台風の発生数及び日本への接近数

第3章 気候変動に対して健康のために取り組むべきこと

- a 生活や行動様式を変えること
- b 防災に対して投資すること
- c X
- d コベネフィットを追求すること

おわりに：調査をふりかえって

参考文献

「気候変動の影響」について調べてレポートを書くために、テキストを図表と関連付けながら的確に読み取る力や、レポートの作成に向けてテキストを適切に解釈し、目次の内容や構成について分析したり検討したりする力等を問う。

『情報 I』 試作問題

問2 次の文章の空欄 **オ** ~ **コ** に入れるのに最も適当なものを、後の解答群のうちから一つずつ選べ。

S : まずは、関数「枚数(金額)」のプログラムを作るために、与えられた金額ちょうどになる最小の硬貨枚数を計算するプログラムを考えてみます。もう少しヒントが欲しいなあ。

T : 金額に対して、高額 of 硬貨から使うように考えて枚数と残金を計算していくとよいでしょう。また、金額に対して、ある額の硬貨が何枚まで使えて、残金がいくらになるかを計算するには、整数値の商を求める演算『÷』とその余りを求める演算『%』が使えるでしょう。例えば、46 円に対して 10 円玉が何枚まで使えるかは **オ** で、その際にいくら残るかは **カ** で求めることができますね。

S : なるほど！あとは自分でできそうです。

Sさんは、先生(T)との会話からヒントを得て、変数 **kingaku** に与えられた目標の金額(100 円以下)に対し、その金額ちょうどになる最小の硬貨枚数を計算するプログラムを考えてみた(図1)。ここでは例として目標の金額を 46

代金を支払う際の「上手な払い方」を考えるという問題解決の題材において、アルゴリズムとプログラミングの基本に関する理解を基に、示された要件を踏まえたプログラムを論理的に考察できるかを問う。(『情報 I』第3問)

支払いに使う硬貨の枚数の合計が計算され、変数 **nokori** に残りいくら支払えばよいか、という残金が計算される。

```
(1) Kouka = [1,5,10,50,100]
(2) kingaku = 46
(3) maisu = 0, nokori = kingaku
(4) i を キ ながら繰り返す:
(5) | maisu = ク + ケ
(6) | nokori = コ
(7) 表示する(maisu)
```

図1 目標の金額ちょうどになる最小の硬貨枚数を計算するプログラム

オ・**カ** の解答群

② 46 ÷ 10 + 1	① 46 % 10 - 1
③ 46 ÷ 10	④ 46 % 10

キ の解答群

② 5 から 1 まで 1 ずつ減らし	① 4 から 0 まで 1 ずつ減らし
③ 0 から 4 まで 1 ずつ増やし	④ 1 から 5 まで 1 ずつ増やし

② i ③ nokori

ケ・**コ** の解答群

② nokori ÷ Kouka[i]	① nokori % Kouka[i]
③ maisu ÷ Kouka[i]	④ maisu % Kouka[i]

令和7年度共通テストについて高等学校関係者にご留意いただきたいこと

【地理歴史、公民について】

- 計6科目の中から1～2科目を選択回答するが、2科目選択の場合、**選択できない組み合わせについて周知頂くこと**

【情報の経過措置について】

- 令和7年度試験で経過措置科目を受験する可能性のある生徒に対して、これまで出題されていない『旧情報』が出題されることを周知頂くこと
- その際、各学校で開講している科目が、「社会と情報」「情報の科学」のどちらであるのかが、生徒にとって明確になるように伝えていただきたいこと
 - * 選択問題は（どの科目を履修していたかにかかわらず）試験時間中に自由に選ぶことが可能です
- 特に、専門学科の科目や学校設定科目（教育課程の特例を含む）によって上記2科目を代替している場合には、それらの科目と「社会と情報」「情報の科学」の内容の対応関係について、十分なお説明を頂きたいこと

令和7年度大学入学者選抜における旧教育課程履修者に対する 経過措置及び新教育課程履修者に対する出題について（通知）（抄）

（令和4年11月10日付 4文科高第1196号 文部科学省高等教育局長通知）

令和7年度大学入学者選抜を実施するに当たり、以下のことについて各大学に依頼。

- ・旧教育課程履修者が、不利にならないよう下記の事項に十分留意の上、必要に応じ経過措置を講ずること
- ・新教育課程履修者に対する出題に当たっては、履修内容に変更が生じているため、下記の事項に十分留意の上、出題すること

1. 旧教育課程履修者に対する経過措置について

（1）大学入学共通テストについての留意事項

経過措置科目として出題される『旧世界史A』、『旧世界史B』、『旧日本史A』、『旧日本史B』、『旧地理A』、『旧地理B』、『旧現代社会』、『旧倫理』、『旧政治・経済』、『旧倫理、旧政治・経済』、『旧数学I』、『旧数学I・旧数学A』、『旧数学II・旧数学B』、『旧数学II』、『旧簿記・会計』、『旧情報関係基礎』及び『旧情報（仮）』について、旧教育課程履修者の選択を認めることが望ましいこと。

（2）各大学における個別学力検査についての留意事項

大学入学共通テストにおいて採られる措置を参考にして、例えば以下の措置を講ずるなど、可能な限り配慮すること。

- ① 新教育課程による出題科目とこれに対応する旧教育課程の科目との**共通の内容を出題する**。
- ② **共通する範囲のみで出題することが困難と判断される場合には**、必要に応じ旧教育課程の科目の範囲から出題する問題を別途用意し、**選択解答できるようにする**。

2. 新教育課程履修者に対する出題について（各大学における個別学力検査についての留意事項）

改訂後の各科目の履修内容に十分留意の上出題すること。特に「数学A」、「数学B」、「数学C」は項目を選択して履修するので、そのことに配慮すること。

3. その他

上記1及び2については、対象となる入学志願者の学習準備に資するよう、決定後速やかに大学のホームページに掲載するなど広く情報提供するとともに、各大学において**令和6年7月31日までに発表予定の令和7年度大学入学者選抜に関する基本的事項及び令和6年12月15日までに発表予定の学生募集要項等においても明記すること**。